



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：「尊厳作戦」のハフタル退役少将が辞任を表明

10月14日、イスラーム主義勢力の掃討作戦「尊厳作戦」の司令官、ハリファ・ハフタル退役少将は、ベンガジをイスラーム主義勢力から解放する軍事作戦をこれから実施すると発表し、同時に、ベンガジ解放後に自分は軍務を終えると述べた。尊厳作戦司令官の地位を辞任することを意味すると思われる。

ハフタル退役少将は、今年5月、ベンガジのイスラーム主義勢力を掃討するため「リビア国民軍」を組織し、尊厳作戦を開始した。国軍の司令を受けずに独自に実行した軍事行動は当初クーデタと捉えられ、リビア政府はハフタル退役少将を非難したが、リビア全土の治安を統制できていない政府・国軍は、現在では尊厳作戦を黙認している状況である。尊厳作戦部隊は、国軍特殊部隊と共に、イスラーム過激派の「アンサール・シャリーア」や民兵組織の「2月17日旅団」と連日ベンガジで交戦し、尊厳作戦側・イスラーム主義勢力側ともに多くの死傷者を出してきた。7月には、アンサール・シャリーアがベンガジの国軍特殊部隊基地を制圧したこともあった。

今月に入ってから動きとしては、4日、東部デルナの「イスラーム青年シューラー評議会」を名乗る団体が「イスラーム国」を支持し、アブー・バクル・バグダーディー（イスラーム国の「カリフ」）に忠誠を誓った。一方、12日にはアンサール・シャリーアの指導者ムハンマド・ザハーウィーが戦闘で負傷し、ハフタル退役少将のベンガジ解放攻勢の発表後には、尊厳作戦側が2月17日旅団の軍事拠点を制圧した。またAPIは、匿名のエジプト軍将校の話として、エジプト軍も15日にベンガジのイスラーム主義勢力を空爆したと報じた。

評価

ベンガジ、トリポリ、その他で民兵組織間の武力抗争が続くなかで、なぜハフタル退役少将がこの時期に尊厳作戦司令官の辞任を表明したのか、その理由は明らかではない。リビア国内紙や海外紙は、辞任表明の理由や背景要因について詳細を報じていない。

リビア全土で暴力的事態が拡大してから数カ月がたつが、国連・EU・欧米諸国・周辺アラブ諸国は、リビアの全勢力に向けて暴力の停止と対話を何度も呼びかけてきた。今月は、播国連事務総長自らトリポリを訪問し、閣僚・代表議会議員（ボイコット派を含む）らとリビア国内の状況について協議した。リビアからのテロリストや武器流入を危惧するアルジェリアは対話の仲介に乗り出し、エジプト軍はリビア国軍・警察の訓練を約束し、（公式には否定しているもの）トリポリとベンガジの空爆に関与したとされる。国際社会の取り組みは端緒についたばかりであり、戦闘が収束する気配はまだ見えない。

ハフタル退役少将は、ベンガジをイスラーム主義勢力から解放した後に軍務を終えると表明したが、仮に尊厳作戦が勝利宣言を行うことがあっても、リビア全土の治安維持制度が抜本的

に再構築されない限り、アンサール・シャリーアなどのイスラーム主義勢力の脅威は残存するだろう。

(金谷研究員)